

# あますいビジョン2029(2020~2029年度)を策定しました。

## あますいビジョン2029 ~尼の水を 次の世代へ~

尼崎市では、40年先の将来を見据えた直近10年間の計画として、新たに「あますいビジョン2029」を策定しました。

平成22(2010)年度にその先10年間の事業運営指針として「水道・工業用水道ビジョンあまがさき」を策定し、水の安定供給と適切な事業運営に努めてきましたが、一方で給水人口の減少や生活様式の変化などともなう給水量の減少に加え、施設の耐震化も非常に重要な課題となるなど、今後の経営環境はより厳しくなると考えます。

新たなビジョンをもとに、市民や企業、地域との連携を深め事業者としての使命を果たし、水道を次の世代へとつなげていきます。



### 安全な水を安定して届ける

**適正な施設への再構築** **安全な水の供給**

- ①水道事業の施設のあり方
- ②工業用水道事業の施設のあり方
- ③管路の計画的更新と維持管理
- ④配水ブロック化
- ⑤配水バランスの変更
- ⑥水源水質の保全
- ⑦水質管理の徹底
- ⑧直結給水の推奨と貯水槽水道の適正管理
- ⑨鉛製給水管の解消

### 災害から守り、備える

**防災対策** **減災対策**

- ⑩施設や管路の防災対策
- ⑪応急給水拠点の充実
- ⑫業務継続計画の運用
- ⑬市民や地域との連携の充実

### 将来へ事業をつなげる

**経営基盤の強化**

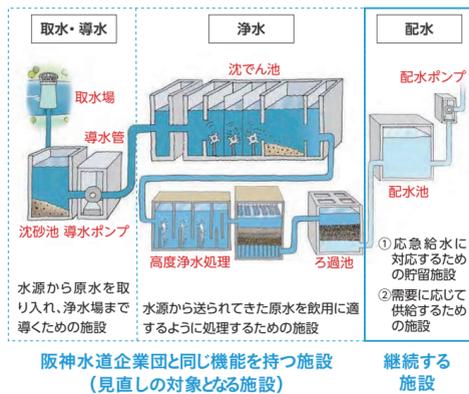
- ⑭経営の効率化
- ⑮広域連携・官民連携
- ⑯広報・広聴
- ⑰人材育成

## 安全な水を安定して届ける

### 施策番号① 水道事業の施設のあり方

神崎浄水場の浄水処理を停止させることで、将来負担の軽減を目指す

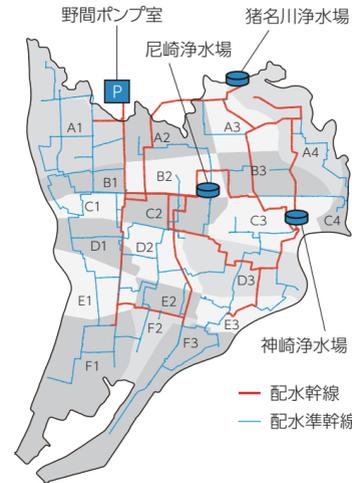
人口減少ともなう水需要の減少は今後も続くため、施設の能力が過大な状態になっていくと考えられます。また、神崎浄水場の多くの設備は老朽化が進んでいる状況です。そのため神崎浄水場については、次期ビジョン期間中(2030~2039年)に浄水処理の機能を停止し、配水機能のみとすることで、将来的なコストの削減を目指します。



### 施策番号④ 配水ブロック化

市内を20ブロックに分け、災害からの水道の早期復旧を目指す

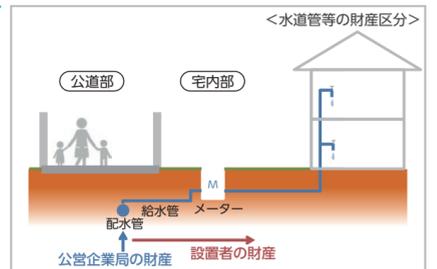
尼崎市の配水システムは、配水管同士を市内全域で網目状に接続しているため、日常的なバックアップ機能があるという利点を持ちます。一方、「個々の管路の配水状況が不明瞭」「大規模災害時の水圧低下が広範囲にわたる」等といった課題もあります。そこで災害から早期復旧できるよう、市内を20ブロックに分ける配水ブロック化を行います。



### 施策番号⑨ 鉛製給水管の解消

鉛製給水管の解消に取り組み、より安心、安全な水の供給を目指す

お客様の財産である給水管の材料として、鉛製給水管は、昭和58(1983)年まで使用されてきました。しかし漏水が多いことや、水道水が長時間滞留すると鉛成分が水中に溶け出すおそれがあり、健康への影響も懸念されることから、尼崎市では鉛製給水管の解消に取り組んでいます。また平成12(2000)年度からは、鉛の溶出を低減させる効果がある、水道水のpH調整を実施しています。今後、公道部については令和10(2028)年度までの解消を目指すとともに、使用者へは鉛製給水管の使用状況及び使用する際の注意事項など、個別通知による情報提供を行います。

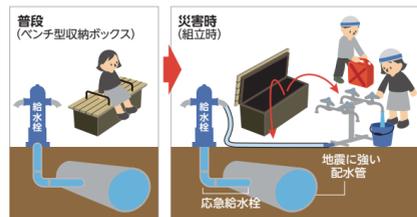


## 災害から守り、備える

### 施策番号⑪ 応急給水拠点の充実

市内に応急給水拠点を79か所整備し、災害時の水の確保を目指す

災害時は応急給水拠点で給水を行います。既存の応急給水拠点(耐震性緊急貯水槽7か所、浄水場3か所の合計10か所)のほかに、今後は避難所となる小中学校や地域振興センターなどに「応急給水栓」を69か所整備し、市内の応急給水拠点を79か所に充実させていきます。その中でも、耐震性の高い配水本管と直結した応急給水栓(本管)を、市民の皆さまの水の運搬距離がおおむね1kmとなるように、24か所設置していきます。



### 施策番号⑬ 市民や地域との連携の充実

市民の皆さまとの自助と共助の取組を進め、災害に強い水道を目指す

公営企業局では、普段から水の備蓄に取り組んでいただくよう、制作したボトル缶などで市民の皆さまにPRしています。これまでは公営企業局の職員が災害時に応急給水を行っていましたが、今後、広域的な大規模災害が発生した場合、まずは市民の皆さまで水を確保していただくため、自助として節水や水の備蓄を、共助として地域での応急給水活動をしていただくことが重要です。一方で公営企業局職員は、公助として配水管など施設の復旧作業に重点的に取り組むことで、早期の断水解消を目指します。

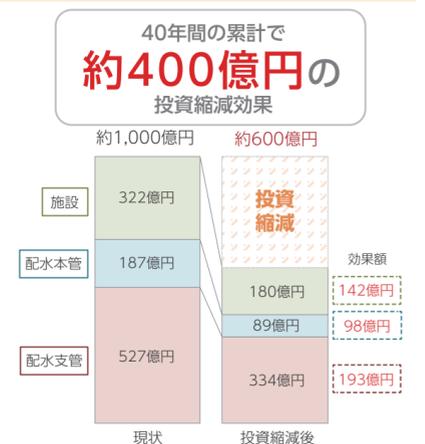


## 将来へ事業をつなげる

### 施策番号⑭ 経営の効率化

将来に向けて水道を安定して供給できるよう、経営努力を進める

あますいビジョン2029に掲げる、浄水場の施設の見直し(施策番号①)などの各取組を進め、施設の更新や改築などの費用を40年間で約400億円削減し、財政の健全化に取り組むことで、本ビジョン期間中(2020~2029年度)は安定した事業運営が行える見込みです。そのため、本ビジョン期間中においては、「料金改定をせず、必要な施設の整備が行える」と考えています。



## 実施に向けて

あますいビジョン2029で示した17の取組を着実に実施していくため、あますい実施計画を策定します。

あますい実施計画は年次ごとに各取組の目標をまとめた「事業計画」と、事業計画を踏まえ健全な財務経営をしていくための「財政計画」の2つの計画で構成されています。この2つの計画は毎年度確認し、進捗を管理していきます。そして、前期5か年(2020~2024年度)の取組状況を踏まえ、ビジョンに掲げる取組の方向性について十分な検証と必要な見直しを行ったうえで、後期5か年(2025~2029年度)の実施計画を策定します。



あますいビジョンの詳細は尼崎市公営企業局ホームページでご覧いただけます。



あますいビジョン

検索